

「天草・県央の戦争遺産 加害と被害」

6／23版

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク 代表 高谷和生

I はじめに ～戦後80年の諸相～

□戦後世代としての「私の視点」～近現代考古学との出会い～

□戦争遺跡保存全国ネットワーク全国運営委員、空襲・戦跡九州ネットワーク事務局長

□平和憲法を活かす熊本県民の会、菊池恵楓園ボランティアガイドの会

□熊本県内戦争遺産の調査・研究活動と啓発活動は、両輪の活動

□活動そのものが「未来への継承」。戦後世代である高谷の「平和継承の活動」

□戦争遺跡は、歴史の遺産であり、忘れてはならない「歴史事実の厳粛なる遺構」であり、「モニュメント」

□さらに地域が戦争で失った貴重な人命、地域の自然や文化、そして地域が戦災のあと復興し生きてきた歴史を考えるうえからも、戦争遺跡の調査研究・保存活用は重要

□戦争遺跡・遺産の学び・見学の「戦争の加害や被害の両面」「東アジア史」視野からの歴史認識の重要性があり、時代背景や地域特性に関する基礎的な学びの保証が必要

□近年、文化財活用論に圧され、全国では単に関心のハードルを下げる手法が多用されるが、誤用された昭和期の「満洲戦蹟保存運動の反省」を踏まえ、徹底した「戦争と平和の学び」の学習保証と、戦争遺産が「国民の共有財産・ヘリテージ」であるとの文化財認識が根底

II 熊本の戦争遺跡・遺産

1 戦争遺跡とは

□全国の戦争遺跡は「約50,000」件、指定登録は「319」件

2021年10月2日現在

□熊本県内の太平洋戦争期の戦争遺跡総数は、多数の特殊地下壕を含めた「723件」

□くまもとの戦争遺産 内の一覧表には「249件」を精査し記載

□熊本県内の指定登録文化財は国148件、県383件、市町村3,382件、国登録文化財156件の計2,382件

2 西南戦争期の指定等 ※熊本県による悉皆調査は未実施

西南戦争遺跡群（国指定、熊本市・玉東町）、明徳官軍墓地（熊本市）、七本官軍墓地（熊本市）、花岡山陸軍埋葬地（熊本市）、旧輜重兵六聯隊衛兵所（熊本市）、有栖川の宮御督戦の地（玉東町）、篠原国幹戦傷の地（玉東町）、城の原官軍墓地（南関町）、肥猪町官軍墓地（南関町）、陣内官軍墓地（水保市）、下岩官軍墓地（和水町）、高瀬官軍墓地（玉名市）、田浦官軍墓地（芦北町）、峰崎官軍墓地（芦北町）の計14件



1945年8月10日米軍機市街地空襲。AIと証言でカラー化

3 太平洋戦争期の指定等

「花房飛行場給水塔」（陸軍菊池飛行場高架水槽・菊池市指定有形文化財）、「永山の掩体壕」（陸軍人吉秘匿飛行場木製有蓋掩体壕・球磨郡あさぎり町登録文化財建造物）の2件。また、合志市の「黒石原飛行場奉安殿」は、保存修復事業を進めており、完了後に国登録文化財・市指定文化財となる予定である。また、東京第二陸軍造兵廠荒尾製造所変電所は、荒尾市が所蔵・管理している。



菊池市指定文化財「花房飛行場給水塔」 菊池飛行場

4 熊本の「戦争の歴史」をたどる

～熊本に残された戦争の傷跡「七大特徴」～

※高谷和生著『くまもとの戦争遺産 戦後75年平和を祈って』熊日出版 第42回熊日出版文化賞大賞・第34回地方出版文化賞最優秀賞の受賞 ※本会HP上に、調査は逐次報告
※『くまもと戦争遺産ガイドマップ』による「熊本県特徴」理解

①軍都熊本市の軍事施設

～熊本城から東部の大江・渡鹿地区への軍施設の移転～

②九州で三番目に多い陸海軍飛行場

～正規飛行場、本土決戦に向けての特攻秘匿飛行場の実相～

③東京第二陸軍造兵廠荒尾製造所

～軍直営で石炭を原料とした黄色火薬等の生産。小型爆弾の生産。製品は小倉造兵廠の弾丸等へ充填、曾根製造所の毒ガス弾の炸薬として利用

④三菱重工業熊本航空機製作所と学校工場・地下工場

～陸軍四式重爆撃機「飛龍」の生産～

⑤本土決戦に向けての天草地区砲台、震洋等の特攻艇基地と兵站基地としての人吉地区の飛行場・地下工場・地下壕群

⑤-1

- 海峽封鎖の海軍平射海面砲台 富岡水尻砲台、御領亀島砲台、久玉小松崎砲台
- 戦争末期の特攻艇基地 富岡元袋震洋基地、牛深茂串震洋基地
- 三角町、戸馳島、大矢野での陸軍船舶砲部隊
- 八代海での陸軍特攻艇「マルレ艇基地」の実態把握、佐敷国民学校への逗留

⑤-2

- 錦町立「人吉海軍航空基地資料館」 2018（平成30年）年8月1日開館
～山の中の海軍の町にしき ひみつ基地ミュージアム～
- 意見書提示（同年9月）回答なし。新たな「靖国史観」への危惧
- 戦争や戦争遺跡を美化したり、集客目的に利用する「戦跡の観光地化・商品化」「民間事業者への委託」「歴史事実の歪曲・矮小化」ではないか。展示説明・解説は果たして十分か
- 集客のための「海軍九三式中等練習機」実寸レプリカ、「何を学ぶ」のか
- 何でもありの「地域づくり」、文化財活用の誤用、行政がからむ「プチ遊就館」
- 県民「学ぶ旅」観光のあり方、「戦争遺跡の学び（ダークツーリズム）」の本質とは
- 十五年戦争につながった「満州戦蹟保存運動」の反省から学ぶ！

⑥県内各地に残る空襲・戦災「被害の歴史」

⑦朝鮮人や中国人、連合軍「俘虜」労働者、「敵機捕獲搭乗員」への「加害の歴史」

⑦-1 通称「田浦熊本捕虜収容所」。使役企業は「東海電極株式会社田浦工場」で、「福岡俘虜収容所第六派遣所」設置

- 捕虜収容所は、三回移転し、最後は工場から南橋を渡り海岸際に位置する。現地には建物基礎・井戸等が現存
- 内訳は、102名（米2・英97・NZ3名）、死亡3名
- 日本国は、「戦時中の労働力不足」を補うため、約37,000人を、全国130箇所では使役。死者は約3,500人
- 「俘虜待遇条約（ジュネーブ条約）」準用での「違反行為」
- 敗戦時での暴動抑止のため大牟田「福岡俘虜第二十五分所」へ6月30日に移動。使役企業は、電気化学工業株式会社大牟田工場



田浦捕虜収容所での1944年12月、日本軍によるプロパガンダ「クリスマスイベント」

Ⅲ 天草・県央の戦争遺産 被害と加害の実相

1 天草海軍航空隊基地

(1) 沿革と概要、特攻

- 天草海軍航空隊は天草市佐伊津に所在する。「佐伊津・御領」飛行場の別称があり、水上機専用の飛行場である。旧通信省天草地方航空機乗員養成所（海軍系）として、開所準備が完了したところで、全施設を海軍が接收。
- 昭和19年3月に第十二連合航空隊博多海軍航空隊天草分遣隊として当初は整備教育隊として発足したが、その後は水上機操縦の教育も行った。昭和17年頃より地元中学生や住民の勤労働員、徴用された朝鮮の人々も建設に投入された。
- 昭和20年3月1日、天草海軍航空隊として独立、第5航空艦隊第12連合航空戦隊に編入。保有機は米軍への引渡目録によれば九三式水上中間練習機36機、九四式水上偵察機3機、九五式水上偵察機15機、零式水上観測機7機、二式水上戦闘機3機の計64機であった。5月5日練習航空隊の指定を解き、第5航空艦隊第12航空戦隊の所属となった。
- 昭和20年の沖縄戦においては第一次攻撃隊が5月24日2機、第二次攻撃隊が6月21日に5機、7月3日に1機の零式水上観測機での特攻作戦を実施し、計8機・16人が特攻死されている。



- 本部跡の高台には、沖縄作戦で亡くなった隊員の「特攻慰霊碑」が戦後まもなく結成された「天空会」により、1973（昭和48）年に建立されている。

上：戦闘指揮所前に集合した搭乗員と
零式水上偵察機 下：水上機滑走台
「斜路」側面部

(2) 本渡楠浦空襲と墜落米軍機

- 空襲を受けた楠浦の「熊本造船所」と二名の死者
□墜落機体及び墜落機搭乗員
□墜落機体：North American「P51」Mustang
□搭乗員：CHAELES. L. BURMAN（ブルマン）中尉 楠浦村字実ヶ浦（さねがうら）共同墓地埋葬
□所属部隊：第5航空軍第5戦闘機集団第35戦闘機群団第40戦隊
□機体番号：44-63335
□墜落日：1945年8月14日午前11時頃
□墜落地：熊本県天草郡楠浦村（現・天草市楠浦町：くすうら）大字舟津（ふなつ）海岸沖
□墜落機資料
墜落地点に隣接した共有管理地「五色島（こしきじま）」の松の木に、墜落機破片が突き刺さり、その後この資料を楠浦コミュニティセンター（旧楠浦公民館）で保管されている。金属片は「リベット留めジュラルミン製部材片」
□証言等による墜落情況、米兵の埋葬、墓地部隊による遺体引き取り

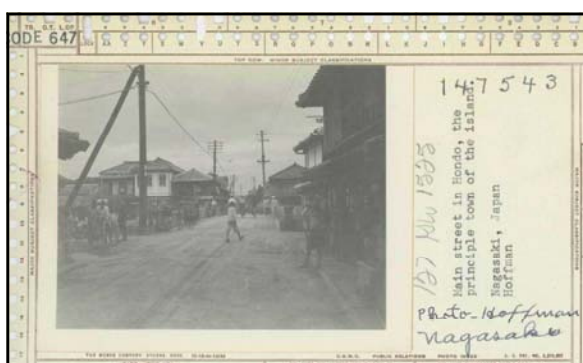


「五色島の松」に刺さった墜落機体のジュラルミン片

(3) 何を伝えるか

- 旧軍の戦争遺跡、空襲の加害と被害
□進駐軍による天草の武装解除、武器廃棄、市民生活の様子

※12/7 天草アーカイブズ市民講座「天草の戦争遺産 軍人像・伝単・進駐軍映像を通して」



- 富岡水尻2号砲台の接收様子格 □納庫内収納の「九五式水上偵察機（アマー22 銘機）」
□島原口之津駅前・林田旅館前での海兵隊水陸両用車「DUKWS」に搭載されるジープ
□天草市本渡の「町山口川と本渡橋」の様子

2 天草地区の個人慰霊「軍人像」と慰霊の姿

(1) 軍人像とは

軍人像とは、明治以降の近代戦争で亡くなれた軍人を慰霊・顕彰する目的で製作・設置された像である。

戦争遺跡研究会清水啓介氏の設置形態を基にした分類では「個人慰霊軍人像・個人顕彰軍

人像・集合軍人群像」の3分類がなされている。また、軍人像材質は「屋外建立では銅製・コンクリート製・石製で、屋内安置は木製」であり、個人慰霊軍人像は「父・母・兄等遺族による建立が全てで、設置場所は墓地や個人敷地内が多い」、個人顕彰軍人像は「建設会や顕彰会等団体による建立が多く、神社や寺院境内が多い」ことが確認されている。

また、古来より「武運長久を祈る神」が、近代で「武勲を立て勇敢に戦死した軍人が神格化」した「軍神像」とは区別する。先の清水啓介氏の愛知県中心とした2016年段階での調査・分類では「個人慰霊軍人像34体、個人顕彰軍人像56体、集合軍人群像12群」が確認される。

(2) 山崎（福江）家軍人像

※本形式を「**栖本型・I類**」と仮称する。台座は「**石垣風台座・方形台座・琴柱型台座**」で構成され、**軍服姿の立像を成す**。

□天草市栖本町湯船原1055番地の**圓性寺墓所軍人像**

□像名：**陸軍歩兵 福江喜八**

□石材：**凝灰岩製・天草御領産**

□装備：陸軍軍衣：昭五式軍服・「13聯隊」襟章、三八式歩兵銃、前ごう、後ごう、背のう、飯盒、雑嚢、剣差 他

□規格：全高：146cm、全幅50cm

□台座形状：石垣風台座・方形台座・琴柱型台座

□台座高：158cm、低台座幅120cm

□戒名：念譽報国義忠居士

□**石工名：下浦石場 石工 松下平太郎**

□墓所管理の山崎豊氏証言では、「平成4年6月の墓所整備の折に、隣接する福江家墓所・軍人像を山崎家墓所内に囲み整備」したとの事である。さらに、「福原家軍人像」は隣接で設置

□銘板：風化のため判読不能

□備考①：天草市下浦町の松下忍氏（現松下石材店代表）証言で「本像の石材は御領から石を持ってきた。下浦の自宅で祖父平太郎が製作した」と聞いている。

□備考②：栖本形式「**個人慰霊像**」祖型の確認、派生状況の県内調査

□備考③：地域（ご遺族・石工 他）の証言聞き取り

□備考④：「**個人慰霊像**」から、何を今に伝えるのか



□栖本町「山崎（福江）家軍人像」

(3) 軍人丸大明神さん

上天草市松島町合津6 1 0 0 - 1 7

□像名：**軍人大明神「嶋崎憲治」像**

□石材：**頁岩製**。25年程前に全身灰色・縁部赤色に塗彩。現在は、慰霊用の屋外の祠内に安置され、蠟燭すすで黒色に変わる。

□陸軍軍衣。当初は左手に軍刀を保持か。

□全高：30cm、全幅：12cm

□銘文：不明。家族証言では、中支派遣栄第一六四五部隊第三中隊所属、昭和一九年八月七日戦死。出征時に武運長久を願い、建立

□建立者：嶋崎憲治郎

□石工：姫戸町矢岳の某石工



□軍人丸大明神像

(4) 熊本県内事例と下浦石工

熊本県内個人慰霊軍人像事例では、天草市栖本町に5体（山崎家・福原家・玉田家・前田家・林邊家）、同市河浦町に1体（本多家）、上天草市龍ヶ岳町大道に1体（太田家）、天草市本渡町に1体（原田家）、天草市戸宇土町に1体（岩永家）、上天草市松島町・大矢野町（藤本家・山本家・嶋崎家）の3体、天草市倉岳町（岳本家）の「**計13体**」が確認されている。

また、人吉市城本町（内山家）に1体、八代市泉村久連子（中村家・川野家・上田家・仲川家）に4体、八代市郡築町（嶋崎家・但しコンクリート製、損壊2体）3体の「**計6体**」、芦北町には戦後建立であるが石像2体の軍人像所在情報が確認できる。

県内では「**計23体**」が遺存する。今後、熊本県内の分布調査と各軍人像詳細調査が必要。併せて、屋外設置では「八代地域のコンクリート製軍人像の緒言」、屋内設置像の把握と関係性の解明が必要である。

熊本県内には、通潤橋を造作した種山石工をはじめ、多様な石工集団が所在する。ここ天草では下浦町に、「加工しやすい 砂岩と良港に恵まれた」ことから、およそ300年の歴史を有する「**下浦石工**」の集団がある。19世紀以降は、下浦産砂岩の需要が急速に高まり、建築資材として社寺の参道敷石の提供が行われ、それは本渡「祇園橋」で結実する。本軍人像の幾つかは、「下浦石工集団」による造作による物である。

併せて、戦死・戦没者への慰霊の姿、天草地域の祖先・先祖崇拜への意識の高さ、濃厚さ等が墓地の立派さとして表出され、「天草地域での屋外に設置された石製軍人像の集中」に関わったものと想定できる。

天草の軍人像 位置図

天草市文化課
松本博幸氏及び
くまもと戦跡ネ
ット高谷和生作成



3 隈庄飛行場

※平和継承リーフレット『碧空に祈る 隈庄飛行場』、『平成28年熊本地震による被災』

(1) 沿革と概要

- 大刀洗陸軍飛行学校隈庄分教所・同教育隊での操縦生の訓練
- 沖縄攻撃支援の為に「飛行第一百戦隊・陸軍四式重爆撃機」の駐屯基地
- 沖縄特攻への中継基地として
- 本土決戦の準備基地として

(2) 隈庄飛行場の特徴

ア 三船敏郎の戦時演劇写真

- 本部付け気象班員として、特攻隊員を見送り、敗戦を迎える。
- 「世界のミフネ」演劇の原点

イ 戦後の接収、オキュパイト写真の発見

- 米軍接収状況の解明、プライベートカラースライドの発見

ウ 何を未来に伝え、継承するのか

- 世界のミフネの足跡、熊本地震での戦争遺跡被災

※10/5 火の君文化ホール くまもと南部広域病院文化事業
高谷講演「戦後80年限庄飛行場と三船敏郎」と三船映画上映



衣川太一コレクション



衣川太一コレクション



□隈庄飛行場オキュパイト写真 □飛龍機上の第2海兵師団米兵 □三船敏郎の戦時演劇写真
カラー写真は、衣川太一氏提供、三船敏郎戦時演劇は、三船プロダクション提供

4 松橋空襲 ※平和継承リーフレット『松橋空襲 ～昭和二十年の空襲と墜落米軍機～』、『空襲下の熊本』、『M76焼夷弾と熊本空襲』

(1) 交通インフラ攻撃「松橋・宇土・川尻空襲」

- 沖縄移駐の米陸軍第5・7航空軍による攻撃
- 本土決戦（九州上陸オリンピック作戦）に向けて、交通インフラ攻撃

(2) 残された戦争遺跡「永代橋梁」

- 九州鉄道株式会社時代の鉄道遺産・戦争遺産
- 本会による橋脚部一部調査のみ。全容調査が必要では！

(3) 何を未来に伝え、継承するのか

- 松橋空襲の実相、空襲の加害と被害
- 鉄道遺産・戦争遺産としての永代橋梁の保存と活用

(4) 紙の爆弾「伝単（でんたん）」

- 昭和20年8月、熊本市・天草他「伝単五種」を投下
- 日本国民に告ぐ伝単、無条件降伏の意義伝単、ポツダム宣言伝単、トルーマン伝単 他 熊本市内40万枚、松橋・不知火・宇土10万枚、約50万枚



空襲した駅舎
天草に降った incendiary 弾は建物を燃やしていた。

□松橋空襲で全壊した松橋駅舎
夏目信弘氏提供



□昭和二十年八月十二日 熊本日日新聞 「熊本市に紙の爆弾」 ※該当部分のみトリミング

□熊本で実際に投下された「伝単 二種」 両資料ともに右側が「現物」、左側が「複写」である。

上段「無条件降伏の意義」伝単 下段「ポツダム宣言」伝単

熊日新聞社新聞博物館所蔵

- 昭和二十年八月十二日熊本日日新聞に「熊本市に紙の爆弾 傳單の内容を喋れば厳罰敵の思想謀略」記事が掲載され。熊本市内での伝單投下を、8月10日「第2回熊本大空襲」当日が「初投下」とであると報じている。
- 戦場及び占領地、敵国（内地・銃後）への「情報戦」

5 西部軍第三事件、「敵機捕獲搭乗員」処刑 ※西部軍事件第6回慰霊祭 6/20

※平和継承リーフレット『松橋空襲 昭和二十年の空襲と墜落米軍機』

- 内地での捕虜飛行士は、「一般捕虜」ではなく、戦犯容疑「敵機捕獲搭乗員」
- 総数568人で、無事本国への生還者は303人
- 捕虜は熊本憲兵隊本部で取り調べを受けたのち、福岡西部軍司令部へ列車で連行される。
- 途中、荒木・筑紫駅付近で米軍機による銃撃「西鉄筑紫野駅銃撃事件」（1945年8月8日11時30分）を受け、連行中の憲兵1名が死亡する。幽閉されたのち15日に油山で処刑された。
- 1945年5月頃以降に西部軍司令部に収容された飛行士40～41人は、「日本人市民に対する無差別爆撃の罪」の理由で6月20日（第一事件）、8月10日（第二事件）、8月15日（第三事件）に3回にわたって処刑された。これらの事件を通称「西部軍事件」という。
- 搭乗員斬首事件裁判（GHQ報告書第420号 再審記録第288号）
- 裁判の期間：1948年10月11日～12月29日

6 「フィールドワーク（ダークツーリズム）」を通して「何を学ぶのか」～

- 「ダークツーリズム」の視点 戦跡や被災地等を観光対象として
- 「人類の悲しみを継承し、亡くなった方を共に悼む旅」として、既に国際的に定着した概念
- 日本が近代化する過程での「ゆがみやひずみ」が如実に現れた地域であり、近現代史を多面的に学ぶことができる文化遺産
- 日本では、広島・長崎の被爆地や沖縄戦跡への、小・中・高校生の修学旅行や一般の方々の学ぶ旅行としても定着
- 平和ガイドとしての専門性、共に共感しあう ※アウシュヴィッツ公式ガイドは国家資格取得者
- 最近はじめた「高校生ガイド活動」への期待と懸念。配慮すべき事、自分ごとのガイドとは！

IV まとめ 「平和のバトン 未来へ ～身近で、自分事の平和活動～」

今年は「戦後80年」、「昭和100年」歴史へ移行する分かれ目～

(1) くまもと戦跡ネット「出前平和講座」

- 有明中学校、大浜小学校、豊水小学校、大野小学校 等
- 玉名町小学校、菊水小・中学校、合志楓の森小学校、熊本学園大付属中学校等

(2) 戦時資料貸出キット「子どもたちの見た戦争 第一・二弾」

- 第一弾 ちいちゃんセット、一つの花セット、軍国少年少女セット、勤労動員セット、金属代用品セット
- くまもと戦跡ネットHPを参照ください！

(3) まとめ

- ウクライナ戦争、ガザ戦闘と重なる「太平洋戦争」と「熊本の空襲」の姿
- 特別軍事作戦＝満州事変、SNS＝プロパガンダリーフレット、捕虜＝戦時捕獲搭乗員 他

- 史実に込められた「歴史の重み」、昭和の歴史の教訓化、「新しい戦前」

- あらためて「加害と被害」の諸相を、県内事例から調べる！証言を重ねる！



県内初、戦時資料貸出キット

- 一人ひとりが戦争遺跡・遺産と向き合い「語り手」「継承者」として語り継ぐ

- ①戦争遺跡の調査、保存、継承・活用
- ②戦争遺跡・遺産は、貴重な歴史資料として「国民共有の財産“文化財”」
- ③庶民の戦時資料の調査と継承は「地域協働の平和学」
- ④広島「被爆体験伝承者」と長崎「平和案内人」による「非当事者による語り」の展開

- 地域の特性を基にした熊本の「血」と「智」
- 核廃絶への「理論と感性!」、平和継承のための「戦争実相と感性!」
- 私たちひとり一人の、自分ごとの「新たな平和運動・活動」を

- 令和7年8月23日 「長崎被爆体験証言会と紙芝居」 くまもと戦跡ネット主催
- 「戦後80年 たまな・くまもとの戦争遺産 ～次世代への継承～」玉名市と共催

